

英米文化学会会報

第69号

平成18年10月15日



アメリカの道路里程は州境からはじまる。

華氏110度の熱気の中、ここでユタ州が終わり、ここからネバダ州が始まる。
かつて幾多の移住者がこの道を西へ向かった。希望と共に。(撮影：佐野、2006年夏)

目次

- 例会担当より 英米文化学会 第121回例会のお知らせ
- 学術担当より 『英米文化』論文募集(締め切り間近)
- 財務からのお願い
- 事務局より 会員消息

英米文化学会 第121回例会のお知らせ(担当: 小林弘理事)

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成18年11月11日(土) 午後3時00分～6時 午後2時30分受付開始

場所：昭和女子大学 研究会館6階 発表会場：6S02 控室：7L04

(東急田園都市線 三軒茶屋駅下車 徒歩5分、バス昭和女子大前 徒歩1分)

当日会費：100円

懇親会：銀座アスター三軒茶屋迎賓館(TEL 03-3418-3421)

会費：3000円 午後6時30分～8時30分

懇親会は忘年会を兼ねて行います、懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

研究発表

1. 英語習熟度の低い大学生の内発的・外発的学習動機づけと
教師のコミュニケーションスタイル

(15:10 15:50)

発表 杉森建太郎 (テンプル大学大学院)

司会 田嶋倫雄 (日本大学)

2. ナサニエル・ホーソーン『ブライズデイル・ロマンス』論 楽園の崩壊
(15:50 16:30)

発表 西山里枝 (昭和女子大学大学院)

司会 丹羽正子 (昭和女子大学)

小休止(16:30 16:40)

3. *In Her Shoes* における 伝統からの脱却 と 新たな家族のかたち
現代ユダヤ系女性作家 Jennifer Weiner の挑戦 -

(16:40 17:20)

発表 君塚淳一 (茨城大学)

司会 河内裕二 (明星大学)

4. D. H. ロレンスとお金

Pansies をめぐって

(17:20 18:00)

発表 須田理恵 (日本大学)

佐藤治夫 (日本大学)

司会 相良英明 (鶴見大学)

研究発表抄録

1. 英語習熟度の低い大学生の内発的・外発的学習動機づけと

教師のコミュニケーションスタイル

杉森建太郎 (テンプル大学大学院)

キンバリー・ノエルズ(Kimberly Noels)等が自己決定理論に基づいてカナダで行った研究の結果は、学習における学生の自律性を尊重する授業運営や適切なフィードバックを行うことによって、外国語教師は学生の学習動機づけに影響を与えうることを示唆するものである。

ノエルズ等の研究をベースとして本発表においては、英語を専攻していない英語習熟度の低い大学生を対象として、その学生の内発的・外発的学習動機づけと、英語教師のコミュニケーションスタイル(教師がどの程度学習における学生の自律性を尊重した言動をとっているか、また教師がどの程度学生に対し適切なフィードバックを行っているか)との関係につきアンケート調査をした。本発表では、アンケート調査の結果及びノエルズ等の研究結果が日本の大学教育現場に適用可能であるかどうかにつき論じる。

2. ナサニエル・ホーソン『ブライズデイル・ロマンス』論 楽園の崩壊

西山里枝(昭和女子大学大学院)

ホーソン(Nathaniel Hawthorne)の第三の長編『ブライズデイル・ロマンス』(*The Blithedale Romance*, 1852)は、1841年に彼自身が参加したユートピア的実験農場ブルック・ファーム(Brook Farm)での体験に基づいて書いた作品である。しかし、現実を描いた写実小説ではなく、想像力が生み出した一編のロマンスに過ぎないとホーソンは力説している。

この作品は作者と共通する点があると度々指摘されている語り手が、楽園を思わせる名称で、事実楽園を目指し建設されたはずのブライズデイルで死ぬかと思うほどの高熱に襲われることを契機に、その共同体は楽園のイメージと相反する死のイメージへと下降し、やがて崩壊が始まる。本発表では、作品における「楽園」と「死」のテーマがどのように関わりあっているのかに着目し、ホーソンの実体験も踏まえながら真の創作意図について考察する。

3. *In Her Shoes* における 伝統からの脱却 と 新たな家族のかたち 現代ユダヤ系女性作家 Jennifer Weiner の挑戦 -

君塚淳一(茨城大学)

ユダヤ系アメリカ人にとって、いかにアメリカ生活とユダヤ伝統文化との折り合いをつけるかは移民以来の深刻な課題であった。改革派も現れたものの、現実には宗教やエスニシティの維持ゆえ、旧世界から続く男性中心主義の伝統が共同体では継承されてきた。だがそれに反発したユダヤ系女性たちは、小説では自立を掲げた主人公を描き、また現実社会ではフェミニズムの闘士として活躍をしてきた。

人気作家 Weiner の作品の女性たちは、一見して現代的且つ日常的な苦悩体験の上に描かれているようだが、実はその苦悩の果てに訪れるものは女性を中心にした、ユダヤ伝統の新たな解釈と読むことができる。本発表では Weiner の 2005 年には映画化もされた *In Her Shoes* を中心に、現在活躍中の Jonathan Rosen や Joan Leegant など他のユダヤ系作家などとも比較しながら、いかに作品で、舞台を現代に置き新たな手法で伝統文化を描いているかを分析する。

4. D. H. ロレンスとお金 *Pansies* をめぐって

須田理恵(日本大学)

佐藤治夫(日本大学)

長命の現代人を考えればD. H. ロレンスは、生の盛りに亡くなったと言えるだろう。このことはまたロレンスの思想を象徴しているかのようだ。階級格差の厳しく存在する英国に労働者階級に生まれ、出身階級にはまれな文学の才能を持った野心家で自由を求めた芸術家としてのロレンスにとって、階級の与える抑圧は耐え難かった。そこから脱出しようと意図する情熱こそ生きる力であり、生きる醍醐味であることを、苦しい経済状態から学んだ。

本発表ではロレンスの書簡が伝えるロレンスの台所事情を参考にしつつ晩年近くに書かれた詩集「パンジー」の中の作品を論じ、ロレンスの人生の陰影を味わう。

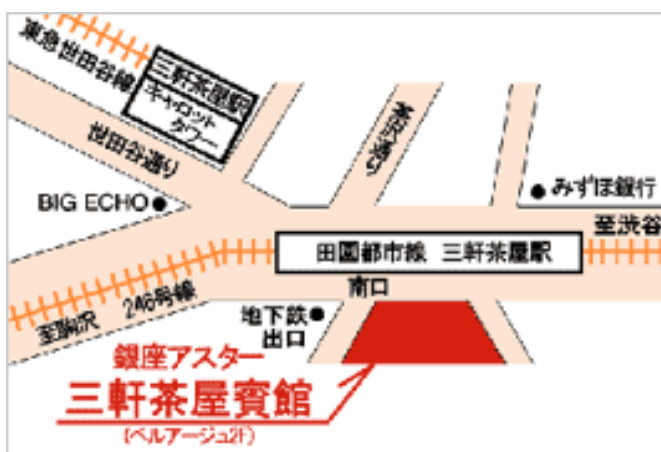
*** 例会会場（昭和女子大学）**



地下鉄：渋谷駅から東急田園都市線で2つ目「三軒茶屋駅」下車、徒歩8分
 バス：JR 渋谷バスターミナルより三軒茶屋方向行き、昭和女子大学前下車

*** 懇親会会場**

銀座アスター三軒茶屋迎賓館（TEL 03-3418-3421）



編集委員会（担当：上野和子理事）から投稿募集のお知らせ

当学会の紀要『英米文化』第37号＜学会創立40周年記念号＞
 の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当者上野和子(〒154-0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)
 までお送りください。なお、投稿規程が平成17年2月2日付けで改定されています。
 次頁に付記します。

紀要『英米文化』投稿規程(平成 17 年 2 月 2 日)

< 投稿規程 >

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当までに送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集・学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

< 執筆要項 >

1. 長さ・形式 和文論文は 12,000 から 16000 字数の間にまとめる。A4 用紙に 38 字 × 25 行、フォント 12 で打ち出す。英文論文も 4000 から 5000 語数を目安とし、A4 用紙に 65 字 × 25 行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆署名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200 語程度の英文の Abstract をつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
 - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
 - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA 新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどいずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌 5 部と抜き刷り 50 部を進呈する。負担金は一頁につき 2500 円である。ただし、始めの 3 頁は無料とする。

以上

財務からのお願い（担当：山根正弘理事）

年会費納入がお済みでない方は、お早めにお問い合わせください。
学会運営に、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

年会費：5,000円

郵便振替番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

納入状況は山根（MasahiroYamane@SES-online.jp）にお問い合わせ下さい。

事務局（担当：大東俊一理事）より会員消息

<会員消息>

省略

英米文化学会会報 第69号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito@SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>